

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

※ 授業満足度 85%以上を維持 家庭学習 1時間以上 H30 40% → 2021年度 60%
進路指導に対する肯定率 85%以上を維持

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。 ※ 部活動加入率 H30 65% → 2021年度 75%
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。 遅刻者数 H30 1285人 → 2021年度 1150人

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Web ページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。
- ウ 危機管理体制を充実させる。

※ 学校説明会理解度 90%以上を維持

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・教員「学習指導方法の工夫・改善」82%（昨年 82%）、「講習・補習の実施」91%（昨年 91%）と、学力向上に力を尽くした。 ・生徒「授業以外の勉強時間 1 時間以上」30%、保護者「家庭でよく学習している」43%であり、家庭学習の定着が依然として大きな課題である。</p> <p>【進路指導】 ・進路指導への肯定的回答は、生徒 88%、保護者 77%、教員 78%と例年同様に高い。今後も、生徒の多様な進路希望に対して親身な指導に努めたい。</p> <p>【学校生活】 ・生徒「学校行事の工夫」76%、「自治会活動への参加」67%で、ともに昨年より 6%増加だが、生徒の自主性を育む一層の創意工夫が必要と感じている。</p> <p>【保護者対応】 ・保護者「相談への適切な対応」86%、「本校の教育は全般的に満足」84%と例年同様に高い。今後も、家庭との連携を密にして丁寧に対応していく。</p>	<p>第 1 回 (7/10) ・教員の働き方改革に関心がある。進めてほしい。 ・大学入試は A0 型が増えてくるので、その対策に力を入れることが重要。 ・公立校離れが進んでいると聞く。阜が丘のよいところをどんどん PR すべき。</p> <p>第 2 回 (10/19) ・既存の部以外に、委員会も生徒の課外活動としてとらえ、充実を図るとよい。 ・「学校に来る楽しみ」がもてるような学校づくりに期待している。 ・様々な場面で主体的・対話的で深い学びを実現し、進路と結び付けてほしい。</p> <p>第 3 回 (1/22) ・家で話したくなる授業になるよう、もう一工夫あればさらによい。 ・アンケート結果について、学習時間と他の項目との相関を分析するとよい。 ・学校経営計画に、「阜が丘らしさ」が見えにくい。 ・パンフレットを、入学したいと中学生が思うようなインパクトのあるものに。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア 継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の研究を進める。	ア・授業満足度 85%以上 (H30 86%) ・授業見学 2.5回/人 (H30 2.0回/人) イ・自己評価「学習形態等の工夫を行った」85% (H30 82%)	ア・生徒の授業満足度は88% (◎) ・教員の授業見学回数は2.7回/人 (◎) イ・授業力向上委員会が、11月に校内研修及び研究授業・研究協議を実施。 ・「学習形態等の工夫は82% (△)であったが、授業内容を生徒がまとめる取り組み、生徒どうしの教え合い、英語での発表や質疑応答など、工夫が見られた。
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 読書活動の推進 ウ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。 イ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 ウ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・家庭学習1時間以上の生徒 45% (H30 40%) ・講習・補習の延参加者 3000人以上 (H30 2947人) イ・図書館利用率 30%以上 (H30 23%) ウ・英検受験者数 80人以上 維持 (H30 104人)	ア・「家庭学習1時間以上」生徒 30% (△)。宿題の量を増やしたり、勉強計画表の作成を課したが、家庭学習の増加には結びつかなかった。 ・講習・補習参加者は延べ4552人(◎) イ・生徒の利用率は24% (△)。国語の授業で活用、図書委員が積極的に新着図書を紹介 (○) ウ・検定受験者 英検80人 (○)、漢検1年全員、ITパスポート3人
	(3) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学びの基礎診断の活用	ア・1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿って、進路HRを中心に継続的な進路指導を行う。 イ・模擬試験の実施前にガイダンス、実施後に分析会を行い、指導に生かす。 ・学びの基礎診断を活用し、基礎学力を定着させる。	ア・進路指導に対する肯定率 85%以上 (H30 85%)	ア・肯定率は88% (◎) ・1年は、進路教材「進路探究ワーク」を活用して職業への視野を広げる取組みを展開。 ・2年はオープンキャンパス参加の他、7月模試全員受験、1月「第1志望宣言書」提出。 ・3年は、模試の受験者数増加。ただし、進路決定後の学びへのモチベーションの維持が課題。
2 豊かな人間性の涵養	(1) 協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化 ウ 地域貢献	ア・体育祭や文化祭、HR活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。 イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。 ・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 ウ・地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(スクールガードポーター)、中学生との部活動交流、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。	ア・体育祭満足度 90%以上 (H30 91%) 文化祭満足度 80%以上 (H30 78%) イ・部活動加入率 65%維持 (H30 65%) ・校内あいさつ運動への参加延部活 60以上 (H30 60) ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 1000人以上 (H30 1557人)	ア・満足度は、体育祭 90% (○)、文化祭 88% (◎) ・体育祭では、各団リーダーを中心に学年を越えた応援や競い合いが見られた。文化祭では、自治会中心に盛り上げる工夫を凝らした。 イ・部活動加入率 60% (△)。1年の加入率が65%にとどまった(昨年84%) ・校内あいさつ運動への参加延べ部活数 65(◎)
	(2) 学校生活における規律の確立 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導 ウ 清掃指導の徹底	ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。 ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。	ア・遅刻者数 10%減少 (H30 1285人) イ・交通安全指導及び意見交換会を年3回実施し、保護者に情報を提示する機会を設ける。(H30 3回) ウ・生徒及び教員の肯定的評価 50% (H30 教員 40%)	ア・遅刻者数は10%減の1170人 (○) ・遅刻防止週間、毎朝校門指導・声掛けを実施。 イ・交通安全指導3回実施。保護者17人参加。 ・自転車通学における危険運転の指導開始。バイクアークの干し場を設置。傘さし運転ほぼゼロ (◎) ・警察・自動車学校による交通安全講習を実施。 ウ・肯定的評価 38% (△) 建物の老朽化により、生徒にとっては、満足感が低くなってしまった。
3 活力ある学校づくり	(1) 専門コース等の教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実	ア・海外から留学中の大学生等の授業参加 イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策 ウ・生徒の習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成	ア・留学生等を1人以上招く (H30 2人) イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上 ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。	ア・関西外大の留学生2名が授業参加。English Caféを放課後に7日間実施。延べ25人参加。 伸び伸びと自分の意見や考えを英語で述べた(◎) イ・2級2人合格、準2級9人合格(◎)(1・2回) ウ・学校説明会において、理数コース生徒たちが中学生に対して生物の実験を指導 (○)
	(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対応 イ 働き方改革	ア・新学習指導要領の研究と本校の教育課程の編成について、教務部長を中心として2年後の完成をめざし、準備を進める。 ・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導部長を中心として準備を進める。 イ・掲示板の活用により、職員会議での報告に要する時間の短縮を図る。	ア・教育課程検討の進捗状況(指導要領の研究、方向性の決定、具体案の検討など) ・大学入試対策の進捗状況(英語指導方法の決定など) イ・掲示板活用数 80件以上 (H30 80件)	ア・新教育課程について、具体的な検討を開始し、大枠を決定 (◎) ・紙ベースのポートフォリオを、自身で振り返り、評価しやすいように改良。定期考査ごとに5回記入 (◎) イ・掲示板の活用 44件(△)。件数は減少したが、迅速な情報共有には十分役立っている。
	(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信 ウ 危機管理	ア・学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の充実を図る。 イ・Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。 ウ 危機管理体制の再構築と、教職員及び生徒等の緊急連絡体制の充実を図る。	ア・学校説明会 理解度 90%以上を維持 (H30 98%) イ・Web ページ更新 200回以上を維持 (H30 227回) ウ・緊急連絡体制の整備状況	ア・学校説明会 理解度 99.4% (◎) ・外部説明会に8回参加。個別相談も実施。 イ・Web ページ更新 202回 (○) タイムリーな情報提供を心掛けた。 ・PTAメール登録 教職員44人(83%、他は電話)生徒479人(67%)、保護者659人(92%) (◎)